

燃料噴射量学習

■適応車種

デミオ(DJ5FS)、CX-3(DK5FW)、CX-5(KE2FW) 等

PCM は、エンジン回転数変動を算出することで、燃料噴射量のばらつきを確認します。

エンジン回転数の変化に基づいて各シリンダの燃料噴射量を補正することで、エンジン回転数変動が低減するように、各気筒の燃料噴射量の増減を行います。

補正量は、学習値として PCM に記憶され、学習値が更新されるまで記憶しています。

性能維持のため、定期的（1 年毎）に燃料噴射量学習を実施する必要があります。

以下に故障診断機(G-scan)を使用して行う、『燃料噴射量学習』要領を記載しますので、参考にしてください。

※注意※

- ・燃料噴射量学習は、以下の条件を満たしている時に実施可能です。
エンジンを完全暖機することで、燃料噴射量学習の実行条件を満たしてください。

燃料噴射量学習、実行条件

冷却水温: 70 から 95°Cの間

吸気温: 0 から 65°Cの間

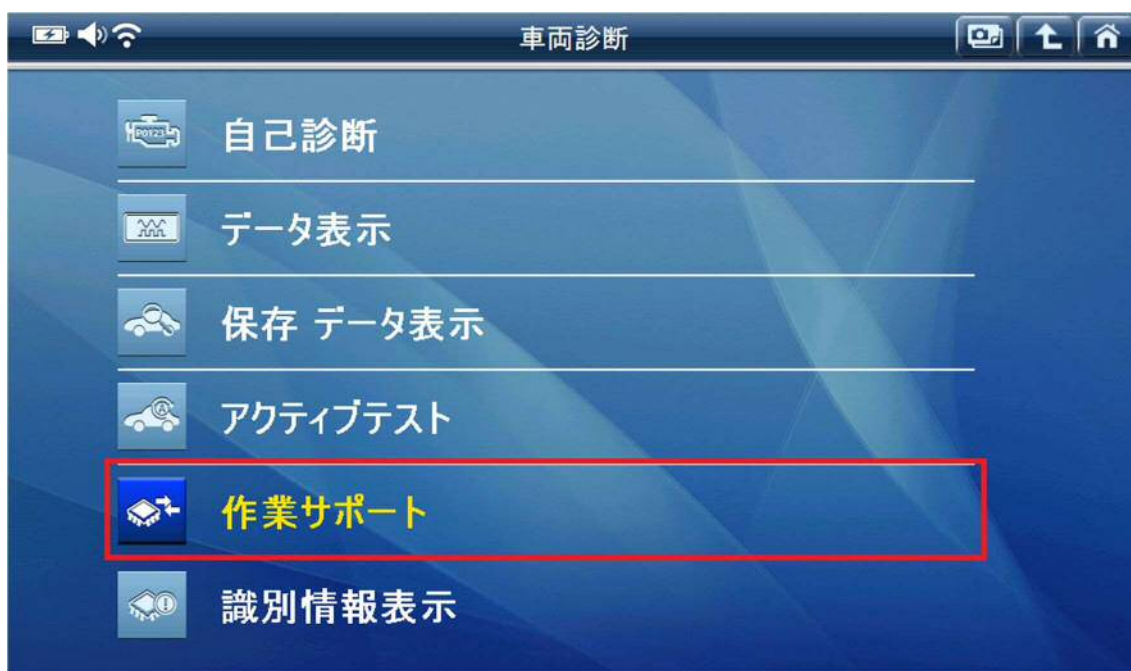
燃温: 20 から 80°Cの間

- ・燃料噴射量学習が完了できなかった場合、エンジン警告灯、グロー表示灯、マスタ警告灯が点灯し、PCM はサービス・コード P1200:00、P167B:00 を検出します。(燃料噴射量学習が未完了のため検出します。)
- ・サービス・コード P167B:00 のみ検出した場合は、グロー表示灯が点滅します。
- ・燃料噴射量学習の開始直後に、複数回のレーシングが実施されます。
- ・燃料噴射量学習が失敗した場合、IG SW を OFF (LOCK) にし、15 秒間以上待った後、下記条件で再度作業を実施してください。

1. エンジン回転数を 2,500 から 3,000 rpm に保ち、エンジンを完全暖機する。
2. 充電警告灯が消灯していることを確認する。
3. 以下の状態であることを確認する。
 - ・セレクト・レバー: P または N レンジ (AT 車の場合、MT 車の場合はニュートラル)
 - ・AC スイッチ OFF
 - ・全ての電気負荷: OFF
 - ・アクセル・ペダル全閉
 - ・故障コード P1200:00、P167B:00 以外が検出されていない

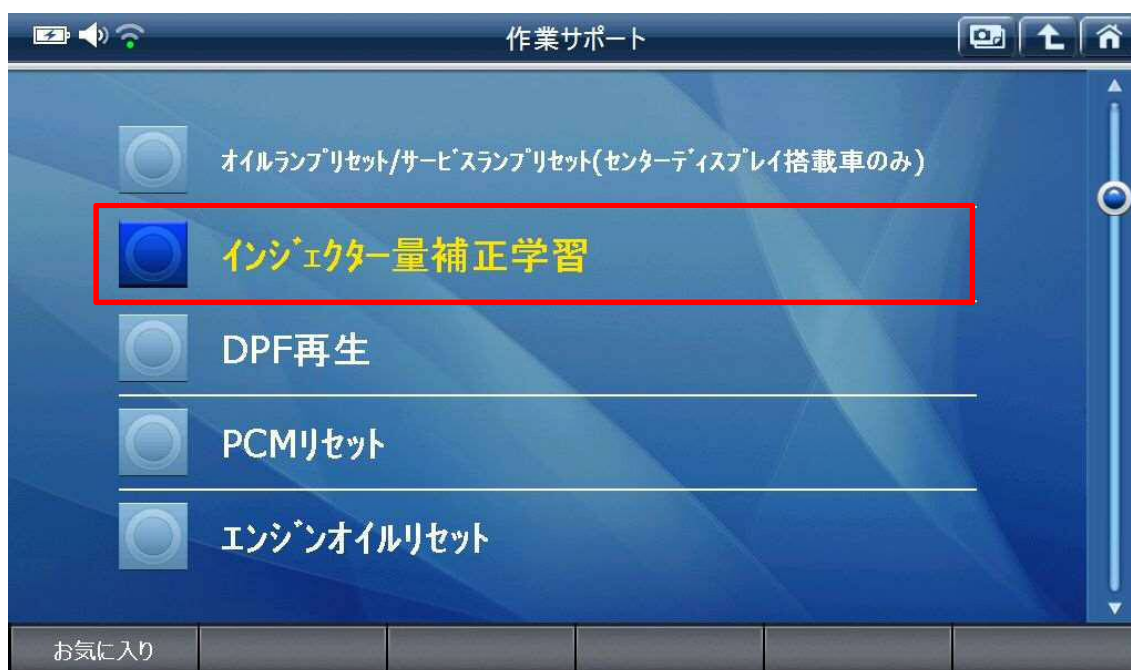
1. IG SW OFF の状態で診断コネクタ(OBD16ピン)に G-scan を接続してください。
2. IG SW ON(エンジン始動)、G-scan の電源を ON にして車種、システムを選択してください。選択するシステムは『PCM』を選択してください。

3. 診断メニューが表示されます。『作業サポート』を選択してください。



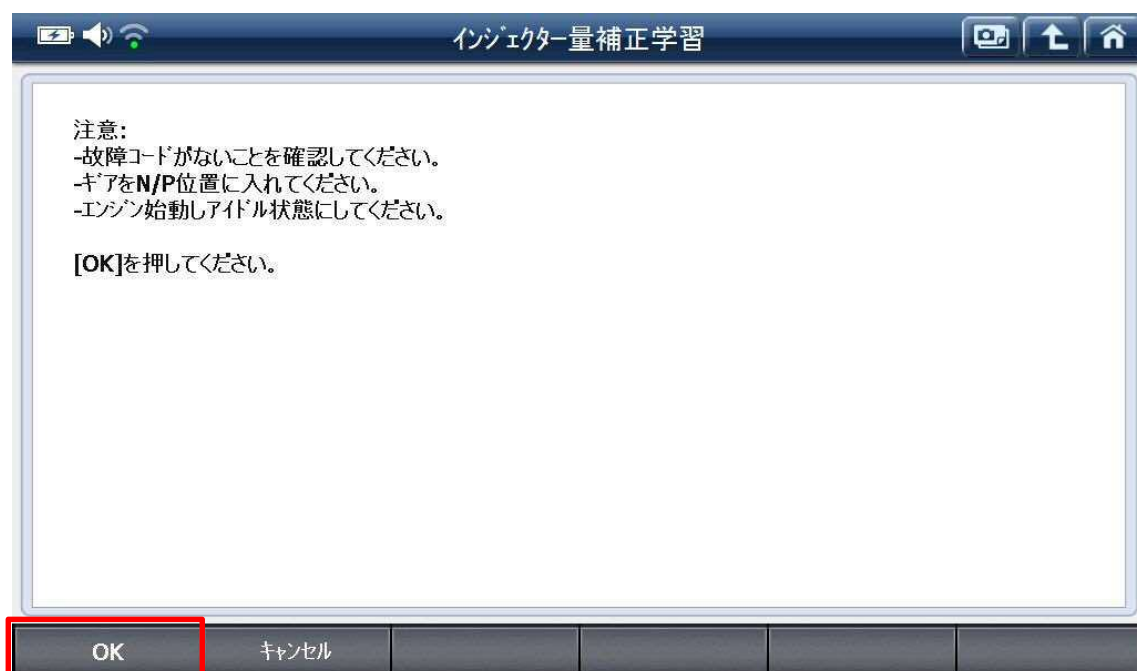
〈図: 作業サポートを選択〉

4. 『インジェクター量補正学習』を選択してください。



〈図: インジェクター量補正学習を選択〉

5. 注意事項を確認し『OK』を選択してください。



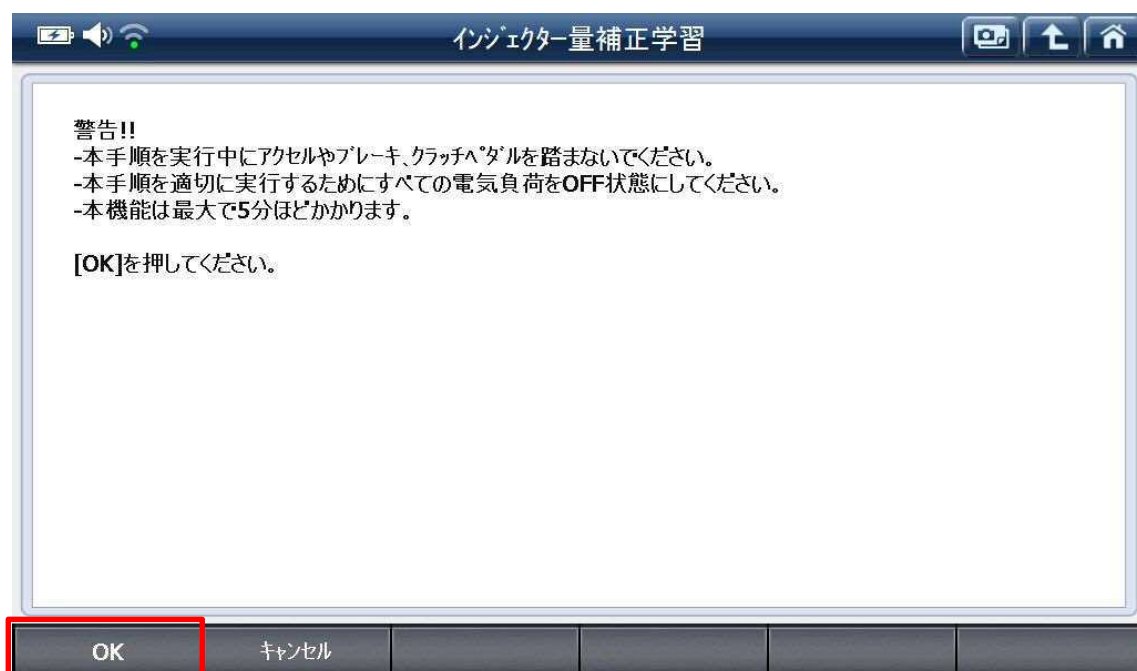
〈図: インジェクター量補正学習注意画面〉

6. 車両状態の条件を確認し、『OK』を選択してください。



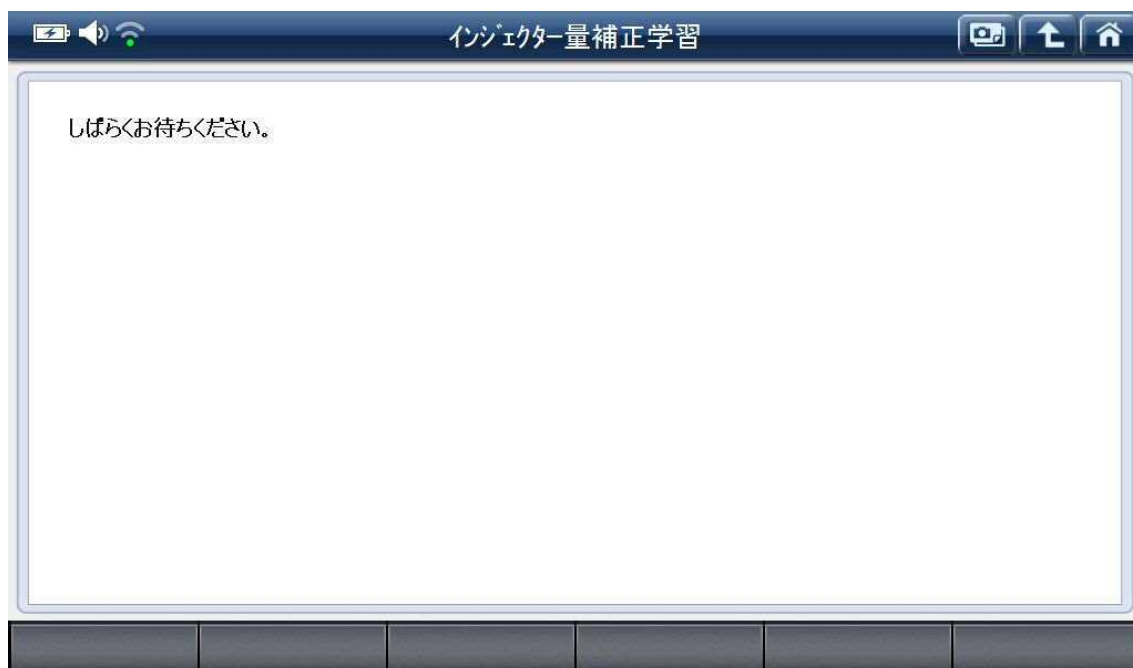
〈図: インジェクター量補正学習条件確認画面〉

7. 警告画面が表示されます。内容を確認し、『OK』を選択してください。



〈図: インジェクター量補正学習警告画面〉

8. インジェクター量補正学習中です。完了するまでしばらくお待ちください。
※完了まで数分から5分程度かかります。



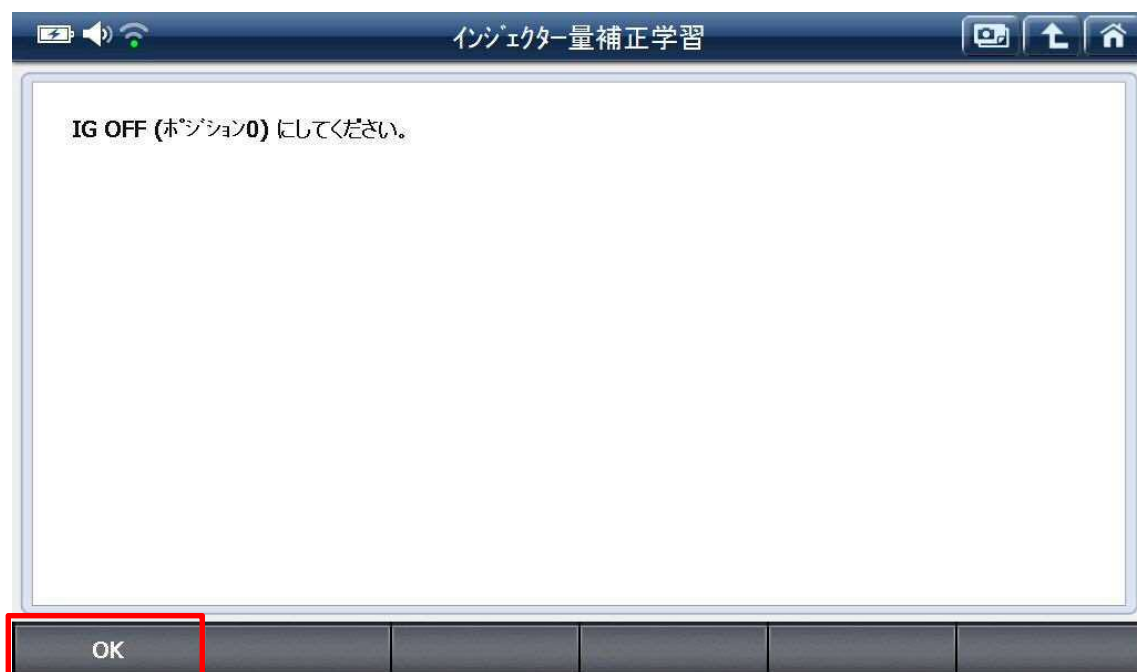
〈図: インジェクター量補正学習画面 1〉

9. インジェクター量補正学習が終了しました。『OK』を選択してください。



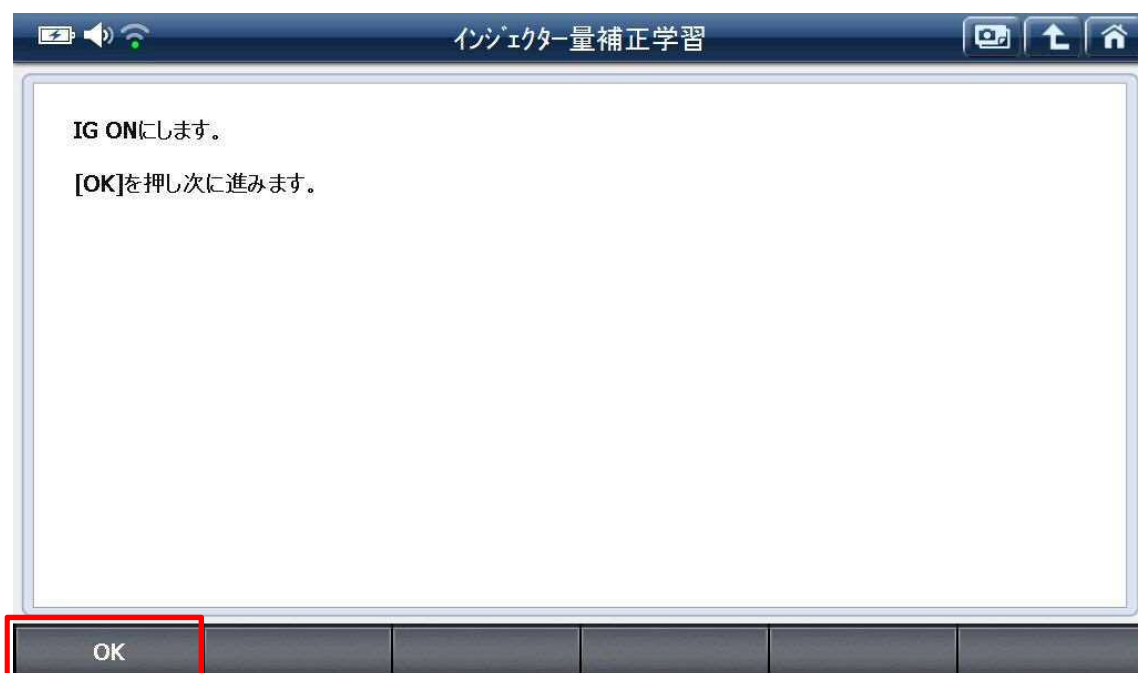
〈図：インジェクター量補正学習画面 2〉

10. IG SW OFF にして、『OK』を選択してください。



〈図：インジェクター量補正学習画面 3〉

11. IG SW ON にして、『OK』を選択してください。



〈図：インジェクター量補正学習画面 4〉

12. 完了しました、『OK』を選択してください。



〈図：インジェクター量補正学習完了画面〉